

青木 健氏の急逝を悼む

本研究所で長年にわたり研究主幹および客員研究員を務めた青木健氏は昨年11月30日の朝、東大和の自宅で心筋梗塞に倒れ、帰らぬ人となった。突然の訃報にわれわれは呆然とし、改めてその存在の大きさに気付かされている。

青木健氏は早稲田大学第一政治経済学部経済学科卒業後、1967年ジェトロに入会。調査一課および計量分析チームに所属し、1976年5月ハンブルグ、1987年9月クアラルンプールに赴任した。彼は昔も今も日常の職務を進めながら常に自分の研究を怠らない。その成果は、1983年に谷沢書房から出版された大作『戦後世界貿易の発展と構造変化』に結実し、1990年には日本評論社から『マレーシア経済入門』（第1版）を出した。

マレーシア経済の「再生から高成長に乗る軌道を内部からつぶさに観察する」（同書第2版の序文）機会を

得た彼は、その後研究対象を東アジアおよびASEAN地域に絞り、精力的にその成果を世に出した。1992年には、その業績が称えられて九州大学から経済学博士号を贈られた。

1993年4月、杏林大学に国際協力研究科が開設され、彼は請われて移籍した。杏林大学では馬田啓一教授との共編著で11冊もの本を出した。事務的な仕事が苦手の彼にそれができたのは、馬田先生のお陰であり、青木氏の同僚に対する深い思いやりがあったからに違いない。今年3月には12冊目、9月には13冊目の出版が予定されている。

彼は若い世代の育成にも努めた。編著の執筆陣に後輩を加えて書く機会を提供し、時に厳しく叱咤激励した。共に飲む楽しさも忘れがたい。昨年の年賀状には「禁煙と節酒に心掛けています。今年は一層徹底します」と書いているが、仲間と飲むと

その誓いは消えた。彼が提供する豊富な話題を楽しみ、議論を戦わせ、われわれは時のたつのを忘れた。

平和祈念事業特別基金理事長の任

半ばで倒れたが、彼の 68 年の人生は残された人々に実に多くのものを与えてくれた。心から感謝するとともに、ご冥福をお祈りしたい。

略歴および主要研究業績

1967 年 10 月～1990 年 3 月 日本貿易振興会（ジェトロ）勤務。この間、調査部調査一課、ハンブルグ・センター所員、経済情報部計量分析チームリーダー代理、クアラルンプール・センター次長を歴任

1990 年 4 月 財団法人国際貿易投資研究所研究主幹に就任

1993 年 4 月 杏林大学大学院国際協力研究科開設に伴い同研究科および社会科学部教授、国際貿易投資研究所客員研究員に就任

2007 年 1 月 独立行政法人平和祈念事業特別基金理事長に就任

2007 年 3 月 杏林大学を定年退職。同年 4 月、同大学国際協力研究科客員教授に就任。学部ではアジア経済論、経済開発論、専門演習等、大学院修士課程では国際開発特論、博士課程では同演習を担当。また、学部入試委員長、大学院教務委員長などの役職を歴任

〔単著〕

『戦後世界貿易の発展と構造変化』谷沢書房、1983 年。『太平洋の世紀と日本』有斐閣、1985 年。『太平洋成長のトライアングル』日本評論社、1987 年。『マレーシア経済入門』（第 1 版）日本評論社、1990 年、同（第 2 版）1998 年。『輸出志向工業化戦略』ジェトロ出版部、1993 年。『貿易からみる「アジアのなかの日本」』日本経済評論社、2006 年、等

〔共編著〕

『ASEAN 躍動の経済』早稲田大学出版部、1995 年。『ポスト通貨危機の経済学』勁草書房、2000 年。『経済検証／グローバリゼーション』文眞堂、2001 年。『政策提言：日本の対アジア経済政策』日本評論社、2003 年、等

〔瀧井 光夫 桜美林大学 教授（財）国際貿易投資研究所 客員研究員〕